

春の公園で

頬 にやわらかく触れるあたたかい風。
つぼみ。希望。

「きょうは何しよっか？」

「春ってさ、何をやるものだと思う？」

いつものことでいまいち意味わかんないけど、このまったく予想もしない斜め上からの問いかけ、嫌いじゃないよ。

「あのさ、春を主語にした『春が』のあとには、どんな動詞が来そう？」

「『春が来る』とか？」

「そう、そんな感じ。自分の感覚で考えるのも大事だけど、ちょっとコーパス使ってみよう。テッテレー♪、『NINJAL-LWP for BCCWJ*』！」

知り合ってから、コーパスっていうのは大量の実例が整理された電子資料で、ことばを客観的に考えるときにすごく便利なんだったということを教えてくれた。

「これで“春”を検索すればいいの？ あっ、『春が…』とか『春は…』とかの実例がいっぱい出てくるね」

「『春が…』のあとには、どんな動詞が来る？」

「『…来る』が80件、『…くる』が28件、『…訪れる』が15件。へー、動詞が活用した形もまとめて示してくれるんだ。なんか、『訪

れる』って春っぽい感じがするー。夏とかだと、もっとこう、来るにしても『訪れる』みたいにやさしくふわっと来るんじゃないかと、があーっと来るような気がするかも」

わたしにも訪れた春。もう、マスクの下で舌打ちしたり、後ろ手で鍵を閉めてから暗くて狭い玄関で涙があふれそうになったりすることもなくなった。

「“夏”はどう？」

「『夏が…』のあとは、『…来る』が37件、『…終わる』が34件、『…くる』が17件、『…訪れる』はここには出てこないね。やっぱりさ、訪れるのは“春”なんだね。“夏”はさ、終わるものなんだよ」

「じゃ、“秋”とか“冬”は？」

「『秋が…』のトップは『…深まる』で24件。で、『冬が…』は『…来る』36件、『…くる』24件、『…近づく』が19件」

「ほら、コーパスってさ、なんか人間くさくね？ あ、AIとかじゃなくて、もともと人間が書いた文章の集合なんだから、当たり前なのかもな」

春が訪れ、夏が終わって、秋が深まり、そして冬が近づく。いやなことはまだたくさんあるけども、ここにいればきっとだいじょうぶな気がする。 作:塩田雄大(しおだたけひろ)

※ <https://nlb.ninjal.ac.jp/>